

## 石川県支部

### リレーションシップバンキングの進展に関する調査研究

平成 18 年度、ついにリレバンは最終年を迎えることとなった。

石川県支部では、これまで各地域金融機関が実施してきたリレバンの諸施策が、石川県内の中小零細企業の方々にどれだけ理解され、またどのように評価されているのかということテーマに、同じ地域金融機関に勤務する、いわゆる「企業内診断士」の 5 人組が今回の調査研究活動を行った。

#### 第 1 章 リレバンが必要となった経緯

リレーションシップバンキングの定義やリレーションシップバンキングとトランザクションバンキングの対比について説明し、次にリレバンが導入されるまでに至った経緯とその背景について、それまでの日本の経済情勢と金融行政の両面から考察した。

#### 第 2 章 リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム（リレバンⅠ）

リレバン開始以前の中小・地域金融機関におけるリレバンの現状を振り返り、リレバンの機能強化の必要性や考え方を確認したうえで、平成 15～16 年の 2 年間の「集中改善期間」におけるアクションプログラムの具体的な取組み内容や実績及び評価についてまとめた。

#### 第 3 章 地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム（略称：リレバンⅡ）

リレバンⅠの評価について、「『リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム』の実績等の評価に関する議論の整理（座長メモ）」を紹介、さらにリレバンⅡの具体的内容と取組み事例について述べた。次に各地域金融機関が公表した「地域密着型金融推進計画」の全体的な傾向と特色ある取組み事例について述べ、さらには我々メンバーが勤務する金沢信用金庫の取組みについても紹介した。

#### 第 4 章 リレーションシップバンキングについてのアンケート調査結果

リレーションシップバンキングの当地区での実態を調査することを目的に、金沢信用金庫を利用する約 300 の事業者に対してアンケート調査を実施し、その調査結果をまとめた。

## 第5章 リレバンが必要とされた国内経済の推移

リレバン導入の要因となった当時の「停滞した経済状況」や「バブル崩壊後の三つの過剰」がその後どのように変化し、それにより、「中小企業の景況感」も改善したのか、地域経済は良くなったのか、等について国内経済の推移から検証した。

## 第6章 地域密着型金融の推進に関する進捗状況

地域密着型金融に対する金融機関の対応状況とアクションプログラムの進捗状況について述べ、次に全国の財務局で取りまとめた「中小・地域金融機関に対する利用者アンケート等の評価に関する第3回アンケート結果の概要」から考察した。さらに、金沢信用金庫における地域密着型金融推進計画の進捗状況も紹介した。

今回我々が実施したアンケート調査では、「地域密着型金融推進計画の評価」は全体的に高いとの評価を得ており一応の安堵感はあるものの、「安定的な資金の供給」、「迅速なサービスの提供」、「低利資金、低コストサービスの供給」等の期待が強いことも判明した。今後の地域密着型金融の進展にあたっては更に各施策を推進していくとともに、「リレバンの本質」について積極的に情報公開を行い、利用者に十分理解を得ていくことが必要となってくるであろう。

この調査研究を通して、我々は中小企業がこれまで以上に企業経営に関する様々な知識や情報を求めていることを感じた。こうしたニーズに的確に対応していくために、今後益々地域金融機関と中小企業診断士の役割は大きくなっていくと考えられる。